

カシミヤおやじの カシミヤとニットの話

知れば知るほど、あなたが着ている軽くて暖かいカシミヤニットがもっと愛おしくなり、心まで暖かくなるカシミヤのお話です。

……まえがき……

【自分のために着るカシミヤ】

色々なファッションを卒業したらグレードに行きつく

人類は暑さ寒さや危険なものから身を守るために、獣の皮や植物の皮などで身をまとった衣を発明しました。その後文明が発展し暮らしが豊になると衣は社会のなかで身分の違いや他人との区別をする役目も持つことになり、権力や裕福さの象徴にもなりました。

なかでも礼服などは自分の気持ちや共感を表す上でも大事な装いで、華やかにお祝いの気持ちを表したり、喪服などは悲しみを共感するための典型的な服装だと思えます。また、他人と違うことを主張する奇抜なファッション等など。そんな社会や他人のために着ることが長い間続いてきました。

若いころ、流行のファッションに身を包んでお出かけすることはとっても楽しく素敵なこと、「いいねー」とか、「素敵！」と言われることは大きな喜びだと思います。いろんな流行のファッションを経験し行動も落ち着いてくると、アピールする装いからだんだんと自分自身が気持ちいいと感じるような装いに移ってくるようです。

軽く暖かく柔らかいカシミヤは、世間や他人様にアピールする（対外的）というより自分が気持ち良くなるためのファッションです。カシミヤは自分の為に着るファッションアイテムと言えます。高価なカシミヤを自分のために着ることは、ある面でいえばとっても贅沢なことだと思います。

【ブランドの本質は】

原料ともの作りにより

私たちUTTOは、製品の真の価値は「原料ともの作り」と信じています。

「一流の素材から一流の商品と二流の商品が生れるが、二流の素材からは二流の商品は生まれても決して一流の商品は生まれたい」と言われます。もちろん私たちの衣料の作りでも同じと言えます。「一流の素材と一流のもの作りが合わさって初めて一流の商品が生れる」ことは誰もが認めるところでしょう。

『一流の素材と一流のもの作り』この二つが合わされなかつたらその後どんなに宣伝や売り方が優れていても一流の商品とは言えないと思います。

ファッションブランドは2つのジャンルに分かれています。一つはもの作りから発展したファクトリーブランドと、パリコレなどのデザイナーから生まれたデザイナーズブランド。

皆さんをご存知のように、ルイビトンや元々かばん屋さんで、エルメスは馬具屋さん。グッチは皮製品屋さん、モノづくりを追求した結果が今の信頼でありブランドで、自社や専用の工場で製造したりして、モノづくりを最も大切に行っています。

一方シャネルやディオールやアルマーニなどのデザイナーズブランドは、卓越したデザインを追求し広く認められたデザイナーズブランドですので、トレンドに合わせてどんどん移り変わりそれに伴い生産する工場も変わります。

日本のファッションブランドは殆どがアパレルという問屋ブランドで、外部のOEM工場が生産されます。工場はいつも次々と変わるトレンドに答えることを求められます。シーズンやトレンドが変わると扱う素材も一変することは常でひとつの素材やデザインに時間をかけて追及するものづくりは難しいのが現状です。そしてOEM工場は優秀な工場であればあるほどアパレルの極秘事項で殆どお客様には知らされません。

UTTOは日本では珍しいモノづくりのブランドです。カシミヤという素材に絞り込み、岩手県北上市にある自社工場の職人たちがカシミヤに対する技術や知識を重ね、大量生産に追われることもなく一枚一枚丁寧に作っている、正真正銘のメイド・イン・ジャパンです。

また、自社での企画・製造・販売という流通の簡素化により、世界の一流ブランドにも負けない品質にも関わらず、このリーズナブルな良品良価を実現できています。

【原料のカシミヤ糸もメイド・イン・ジャパン】

要は上中下の上の上の原料です

メイド・イン・ジャパンの製品とは。製造の主要な最終工程が日本で行われたものはメイド・イン・ジャパンと表記することになっています。カシミア原料の糸が外国産でも日本で製造されたものはもちろんメイド・イン・ジャパンです。ですからカシミアのように高価な原料の糸は大半が中国で大量に生産されたものと推測されます。

そんな中で、UTOは世界最高峰の原料を使い、世界の紡績業界のワールドカップメンバーとも呼ばれるCCMI(カシミア・キャメル(アー協会)に日本のメンバーとして認定されている日本のカシミア糸の紡績会社、東洋紡糸工業と深喜毛織で紡績された糸を使用しています。

製品の作りだけがメイド・イン・ジャパンであるだけでなく、糸もメイド・イン・ジャパンなのです。

しかも、その糸の原料は、世界の超一流ブランドが使用する世界最高クラスの原料と同等か、それ以上のグレードの原料を使用しているのです。

しかし、ホワイト・特一級整毛で平均繊維長が37ミリ、繊維径が15.7マイクロン以下……。なんて専門的なことを言っても一般の方にはさっぱりわかりませんし、なかなか理解していただけません。時々、「UTOのカシミアは上中下で言ったらどのレベルですか？」と聞かれることがあります。そんな感じで評価されるのはかなりショックですが、「上中下で言ったら上ですが、その上なのかにある上中下の上の上ですよ」とこたえます。皮肉に聞こえるかもしれませんが、その道の専門家が世界トップと認めても一般の人々から評価を頂くのは本当に難しいものです。

「世界トップクラスの原料」を、「世界的な日本の紡績技術で紡績した糸を使い」、「岩手県北上の熟練の職人が一枚一枚作るカシミアニット」ですから、世界の有名ブランドにも絶対負けないと自負しているのですが。

【風前の灯の製造現場】

流通する衣料の3%を切ってしまったメイド・イン・ジャパン

ファッション業界は流通が長すぎると言われてきました。

通常出来上がった製品は、工場から、商社、アパレル、小売店と渡り、ショーや宣伝などの経費をかけられて、製造費より流通経費が大きいという本末転倒の現象もみられます。

長い間売上至上主義のように短サイクルで売り上げ高を競ってきたために低価格・薄利多売の風潮が強いのも特徴です。当然のように下請けのOEM工場に低価格を要求する。そのために工場側は多ロットを要求し、売れる以上に生産し、今度は多くの残品が出る始末です。

途上国に比べ物価や賃金の高い日本国内でのモノ作りはコスト高になりました。すると

多くのアパレルが生産コストの低い海外の工場に生産を依頼したり、工場を海外移転する企業もあり多くの国内の工場が閉鎖を余儀なくされてきました。今では衣料品に占める日本製の割合は3%を切るようになってしまいました。職人も仕事を失い、長年培われてきた製造の技術も失われてしまいます。日本の製造は風前の灯火の状態です。

絶滅危惧種ともいわれるニット作りですが、先人から伝わる貴重な技術を何としても続けて将来へ伝えたいと思います。

一 カシミアの良さ、カシミアを着る幸せ

身も心も暖かくなるカシミア

【成長するカシミア】

自分で洗って育ててください もっとふんわりと体に馴染んでくる

UTOの天使のストールは名前の通り、軽くて柔らかく気持ちの良い、当社自慢の商品です。創業間もない1993年頃、職人さんと何度も試編みして作り上げた商品なので愛着もひとしおです。以来、私の冬のマフラーはもっぱらこの天使のストール一本やりです。

冬になるとこの天使のストールは手放せませんが、毎日同じものではまずいので何本かをローテーションで使っています。

シーズンの中で2〜3回ぐらい洗濯することになりますが、クリーニンングには出したことがありませんカミさんがやってくれるのですが、いつも洗濯機の手洗いモードです。

洗剤や柔軟剤も市販のもので、普通の全自動です。最後の脱水まで自動的にやってくれるので、これと言って手をかけるわけではありません。

皆さんにも、あえて「普通に洗濯してほしい」とお願いしています。

自分で洗うのはUTOの実用テストでもあります。もちろんカシミアのセーターも同じように洗濯機で洗っています。自社のカシミアの変化を見たいと思っていますからです。

当社では常々、「UTOのカシミアニットは、ご自宅での洗いをお勧めします」と言っています。

一般の方なら、高価で繊細なカシミアの天使のストール&マフラーを洗濯機で洗うにはかなり勇気が要るかもしれません。

お客様に天使のストールをお勧めしているときに洗濯の話になりました。

「ご自宅で洗って下さいね」とお勧めしていましたが、どうしても自信がないとおっしゃいます。そこで、私が個人で5年以上使っている天使のストールをお見せしました。随分使っているのです、サイズは若干変化したものです。

そのストールを手にとって、「エーッ！お店にあるこの天使のストールは凄く柔らかいのもっと、こんなにも柔らかくなるんですね！」と、二度ビックリの声を上げられました。

私はいつも普通に使って、普通に手洗いモードで洗濯して、首に巻いて良い気持ちになっているだけでこんなに感激されるとは予想外でした。

「時間が経つにつれてスカスカになってくると思っていました！それが逆にこんなにふわふわになってくるなんて想像していなかった！」と、納得でお買い求めいただきました。

以来、青山のショールームに来て頂いたお客様に天使シリーズをお見せするときには、時間が経って何度も洗濯した私の天使のストールを手にとってもらうことが、いつものことになりました。

* 天使シリーズをご自宅で洗濯される際は、折りたたんでネットに入れて頂くと、洗濯機で普通に洗えて形も崩れにくいです。お試しください。

【セーターはカシミア山羊約3頭分】

希少で貴重なカシミア

ウールの宝石と呼ばれるカシミアは、中央アジアの高地に生息する山羊の仲間です。冬は零下30度にもなる極寒の地ですが、夏は逆に40度を超す気温の変化が激しい処です。そんな厳しい冬を乗り切るために毛の間に軽くて暖かい産毛が生えるのですが、春になるとこのうぶ毛が自然に落ちて夏毛に生え変わります。このうぶ毛を人間が頂いてセーターに利用させてもらっているのですが、あの柔らかいうぶ毛を収穫する為にカシミアを殺すことはもちろんいじめることもありません。人間とカシミアはとってもいい共生の関係なのです。

カシミヤのうぶ毛を使ってセーターやストールなどを作りますが、いったいどれくらいのカシミヤのうぶ毛が必要なのでしょう？

カシミヤの毛は、熊手みたいな道具で梳きとります。一頭のカシミヤから300グラムぐらいの毛が獲れます。ヒツジの毛刈りの様子などを見ることがありますが、丸々のヒツジが5分から10分ぐらいで丸坊主になります。カシミヤはそんなに簡単ではありません。刈るのではなく梳くので一時間ぐらいかかります。私も以前、中国のカシミア産地の内モンゴルでカシミヤのうぶ毛梳きを体験させてもらったことがあります。5分ぐらいで腕が張ってくるぐらいきつい仕事です。

春になるとずっとこのうぶ毛梳きが続く厳しい時期ですが、カシミヤ牧民にとっては1年の苦労が報われる嬉しい時なのです。

梳き採った毛は巨大な袋に詰められ専門の業者に売り渡されます。産地には広い地域に転々と放牧している牧民を回って収穫された毛を買い集めるだけの仕事をしている専門業者もいます。

梳き採った毛は土毛（どもう）と呼ばれ、うぶ毛だけでなく剛毛と呼ばれる硬い毛、刺し毛、枯れた木や草、土や砂など、カシミヤの1年分の汚れがついています。

土毛は篩いにかけて砂や泥を落とした後、小さな植物の枝や葉などを人の手で取り除き洗浄されます。洗浄した後に整毛というカシミヤ独特の工程でうぶ毛を取り出します。

この整毛工程でやっとあの綿菓子みたいなふわふわのうぶ毛が取れますが、この時点で採毛したときの半分ぐらいに なってしまいます。

そのうぶ毛の中でも、良質で長い繊維はニット用として取引され、短い繊維はコートやスーツなどの織物用として、太い繊維や比較的短い繊維は毛布用として取引されます。

一般の人にはあまり知られていませんが、カシミヤはニット用が一番良質で高価な原料を使っているのです。

1頭から採れた300グラムの毛は最終的には180グラムぐらいしか取れなません。その貴重なカシミヤを使ったTPOの天使のストールはおおよそ140グラムですから、カシミヤ1頭分のうぶ毛を使っていることになりましたね。レディスのセーターでカシミヤ2頭分、メンズで3頭分が目安です。ワオー！ですね。それを想うと気持ちもホットになりますよね。

【暖かさの秘密は空気】

なぜあんなに軽く柔らかいの？に暖かいの？

カシミアの魅力はなんと言ってもあの暖かくふんわりとした柔らかさと軽さですね。なぜカシミアはあんなにふんわりと柔らかく暖かいんでしょうか？

ちょっと堅い話で恐縮ですが、暖かさを保つには外の冷たい空気が我々の肌の熱を奪うのを防ぐことと、自分の体温を逃がさないことですが、その壁の役目をするのが、我々の着ている衣服なんです。

この衣服は外気からの熱を遮断したり肌が傷つくのを守るのは当然ですが、動きやすいとか、軽いつか、適度に熱を交換するとか、色んな機能が要求されます。その総合評価が『着心地が良い』ということでしょうね。

その壁（衣服）の机身で大きな働きをするのが実は『空気』なんです。空気が動くと（風のように）肌の揮発を促し寒く感じるんですが動かない空気は断熱効果が高いんです。これを熱伝導が低いと言います。

『あったか〜い』と感じるには衣服に如何に熱伝導率の低い空気を沢山蓄えるかが一番の課題です。

衣服の殆どが糸から作られますね（当たり前か）。その糸の原料は植物の綿や麻、動物の毛、合成繊維などいろんな素材が使われています。それぞれに特徴があり用途によって使い分けされていますが、その糸の原料は綿や毛を束ねて撚り合わせて作ったものです。同じ太さの糸なら糸の元の原料の綿や毛が細ければ細いほど沢山の空気を抱えることが出来ることはご理解いただけるでしょう。

一般的に動物の毛の中ではカシミアの毛が一番細いんです。（周りくどくなってしまうかもしれませんがこれが言いたかったんです）
細いということは当然軽い、柔らかい、繊細ということが理解できますね。

【天使のストール】

匠夫妻の天使のカシミア誕生物語

『天使のストール』は、手に取ったほとんどの人が『やわらかい！』『気持ちいい！』と
いってくださる我がUTO自慢のシリーズです。

カシミアならではの、いや、カシミアでもここまでの風合いの商品はそんなにあるもんじゃ
ないと自負しています。

この天使、初めてトライしたのが1994年ごろ。カシミアをライフワークにしていこ
うとハウスオブホワイトカシミアというブランドを立ち上げたときカシミアでしかできな
いものを、という事で何回も試作して作り上げたものです。

これを作っていたのが内田昭三さんという職人さんです。

内田さんは私が今までニットに携わってきた中で出会った最も優れた技術者の一人でニ
ットの匠と尊敬している人です。

今の日本ではほとんど編む人がいなくなってしまうた細かい編地の12ゲージのセータ
ーを高い技術で丁寧に作ってくれるUTOの宝です。

天使シリーズは細い糸を太い針に掛けて編むんですからかなり邪道で、編むほうは大変
なんですがそんな無謀な願いをしてしまうのがUTOのずうずうしさ。またそんな邪道
の願いをきちんと商品にしてくれるのが内田さんの凄いところですよ。

この天使、引っ張りがちよつと強いとすぐに糸が切れてしまいます。又、手横機は編む
ときに適度の錘をつけて引っ張りながら編むのですが、編地が繊細なためにほとんど錘を
つけられないんです。

そのために細心の注意を払いながら編み立えます。

強度のある化学繊維や綿、引っ張りに強よい梳毛などの糸なら自動機でも編めるし、複
雑な編地でもこんなに苦労しないでしょう。

この時、どこのメーカーのカシミア糸が合うかいろいろ試してもらいました。英国一社、
イタリア2社、中国一社、日本3社で、世界のトップクラスの糸です。カシミアをライフ
ワークにしていこうと決心したときで内田さんが良いといった糸に決めることにしていた
ので真剣でした。この時に「この糸が良いよ」とおっしゃったのが日本の東洋紡糸の糸で
した。以来ずっと同じ糸を作っています。

効率よく大量に製造されるのと違い、UTOのセーターは長年の経験と技術で『貴方の
為に作ったセーター』です。残念ながら値段も一番高い糸でした。

男女兼用のこの天使のマフラーをずっと愛用しています。古いものは10シーズン以上
も首に巻いているマフラーもあります。かなりくたびれてきましたが今でも首に当たる柔

らかさがたまりません。

一度買っていただいたお客様から色違いを注文いただき、『着用してないみたいくらい軽くて気持ちいいよ』と実際に着用していただいて良さを認めてくださった方からのリピートに嬉しさ倍増です。

こんな繊細な商品ですからどうかやさしく取り扱ってあげてください。

「天使のストール」は(株)ユニーオーの商標登録商品です。